

私にも  
言わせて!  
第34回

新天地へのご縁は  
スキューバダイビング部!



神奈川県相模原市保健所  
地域保健課 兼 疾病対策課  
副主幹  
吉田 綾

千葉県出身。平成11年北里  
大学医学部卒業。麻酔科、内  
科を経たのち19年相模原市  
保健所勤務。22年神奈川県  
大和保健福祉事務所への派遣  
を経て24年より現職。

まずは、エッセイ担当関係者の皆さまへ寄稿する貴重な機会をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。私が地方行政(公衆衛生へ転職したきっかけから現況等までをお伝えしたいと思います。

公衆衛生との出会い

公衆衛生との出会いは大学4年生のときでした。スキューバダイビング部に所属しており、当時はしゃれたイメージのスポーツでしたが、正式名称は「潜水医学研究会」という文化系の部活でした。東日本医科大学総合体育大会にダイビング種目が存在しないことが理由で、体育会として認められなかったためですが、「研究会ゆえに研究活動をしなければ部活動として認められず、ダイビングのみならず潜水医学に関する研究も部活動の一環でした。私が4年生時に選んだ研究テーマが「プロダイバーにおける減圧症の実態調査」というもので、調査を行ううえで

卒業後から入職まで

大学卒業後、6年間は臨床医として従事していました。6年間のうち、3年間は麻酔科医として主に手術管理を行い充実した日々を送っていました。

ていきましたが、「一生続けることへの疑問が生じ、東京都内にある自宅から福島県内の医療機関へ近い地域医療に携わっていました(月・麻酔科 火・金・内科)。医師不足のため福島県へは新幹線通勤で、毎週連続当直でした。途中、上司が入院した際は火曜日から土曜日まで連直という生活が日常化していた時期もありました。当時の過酷な生活を支えていたのは、若さと患者やスタッフの皆さまからの温かい感謝の言葉や触れ合いだったと思います。

そこでは小児から高齢の方まで、簡単な外科的処置を含め、産業医活動や乳幼児健診・就学児健診から在宅での看取り、警察医としてご遺体の検案まで幅広く学ぶことができました。正に、ゆりかごから墓場まで(産婦人科以外)、さまざまな経験を積むことができ、地域医療の現場を学ぶ好機会だった

たと思います。また、地域医療に携わることで行政への関心が自然と生じていました。

福島県へ通い始めて2年目に、かつて所属していた潜水医学研究会の部長を務められていた衛生学公衆衛生学教授(現名誉教授)の相澤好治先生とお会いする機会がありました。そのときに相模原市行政へのご紹介があり、諸事情と調整を経て、平成19年に入職する運びとなりました。

入職後

3年間は他の多くの自治体医師と同じく、主に結核をはじめとした感染症を担当していました。臨床から行政へ方向転換した当初は「臨床医に戻りたい」と願う日が来るかもしれない。それは明日か、3年後か。いつ訪れるかわからない」と思ったものです。「そのときに自身ができるように感じてどのように行

動するの不安でしたが、「そのとき」は現時点でまだ到来していません。

平成22年から2年間は神奈川県大和保健福祉事務所(現厚木保健福祉事務所大和センター)で人事交流職員として従事しました。担当業務は感染症だったため、業務内容としての大きな変化はありませんでしたが、神奈川県内の職員の方々と交流できたことは大きな財産であり、現在も生きています。

母校で非常勤講師としての公衆衛生の講義もこのころから始まりました。たまに訪れるキャンパスは、学生時代の思い出が自然に蘇り甘酸っぱい感情に包まれます。教えることで業務への理解が深まりますし、学生の柔軟な発想は刺激にもなり、有意義な時間となっています。

平成24年からは相模原市保健所へ戻り、地域保健課へ配属となりました。所内筆頭課であり、健康危機管理に関すること、保健所内総合調整に関すること、保健医療にかかるとの育成および資質の向上に関することを担当しています。医師確保が不安定のため、疾病対策との兼務であり、感染症

の一部も担当しており、双方の課を行ったり来たりしている状態で、双方の職員への負担を思うと心が苦しくなる日々です。相模原市は人口約72万人の政令指定都市であり、行政医師としてはたいへん魅力のある自治体だと思いますが、近隣も魅力ある自治体が多いためか医師確保に難渋しています(現在実務医師2名)。もし、この誌面をご覧になられた方で相模原市にご興味をもたれた方がいらっしゃいましたらお気軽にお問い合わせください。現職に向いているのかと問われたら素直にうなずける自信はありませんが、離職率が高いこの業界で自分が続けられている理由を考えてみました。

- ・学生時代に公衆衛生に興味を抱いたこと
- ・麻酔科医、内科医時代に培われた心身の忍耐力
- ・地域医療を経験した中で抱いた行政への関心
- ・恩師から仰せつかった使命感
- ・恵まれた人間関係
- ・未つ子気質

といったところでしょうか。前記の中でも特に使命感は大き

なものだと感じています。「やりたい・やりたくない」という観点よりも使命感を抱いているほうが、ネガティブな感情が生じた際の対処法が結果的にポジティブになりやすいのではと考えています。

ワークライフバランス

入職したばかりのころは(当直がないため)毎日自宅へ帰れることだけでなく大きな喜びを感じていました。業務に慣れてきたころから趣味に時間を割けるようになり、5年前から健康管理のために始めた通勤時のウォーキング(1時間で5・5km)が登山へつながり、現在では月平均1・5回は山行へ出かけています。スキューバダイビングと登山はフィールドこそ異なりますが、共通項が多いこともわかりました(事前計画やバディシステム、危機管理等)。仲間と大自然の中で体を動かし、すばらしい景色との出会いはほかに代え難い喜びがあります。

また、歴史のある華道教室にも通っており、引き算の美学を学びながら花と向き合う時間も大切にしています。無理することなくワークライフバランスがとれた快適な生活

は文字どおり健康です。ほかに(ジャンル問わず)音楽鑑賞が好きなので積極的にコンサート会場へ足を運んでいます。来秋はウィー×音楽三昧の旅に出かけよう」と企画中です。

入職したころは違和感を感じていた短期間での変動も、知り合いが増える好機会へと前向きに受け止められるようになり、数々の趣味は当市で知り合った職員の方々と共有しています。職員数約4600人の大きな組織なので、今後もどのような方々と知り合うことができるかたいへん楽しみです。

現職に至るまでいくつかの箇所を経由してきましたが、どの経験もむだはなく、現在にすべてつながり生かされています。人と人がつくる人間関係に助けをいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。恩師の相澤好治名誉教授の徳育である「守礼敬人」の言葉のとおり、今後も礼を守り人を敬う気持ちを忘れずに努めてまいります。さまざまな形で皆さまにお世話話になる機会があるかと思いますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。